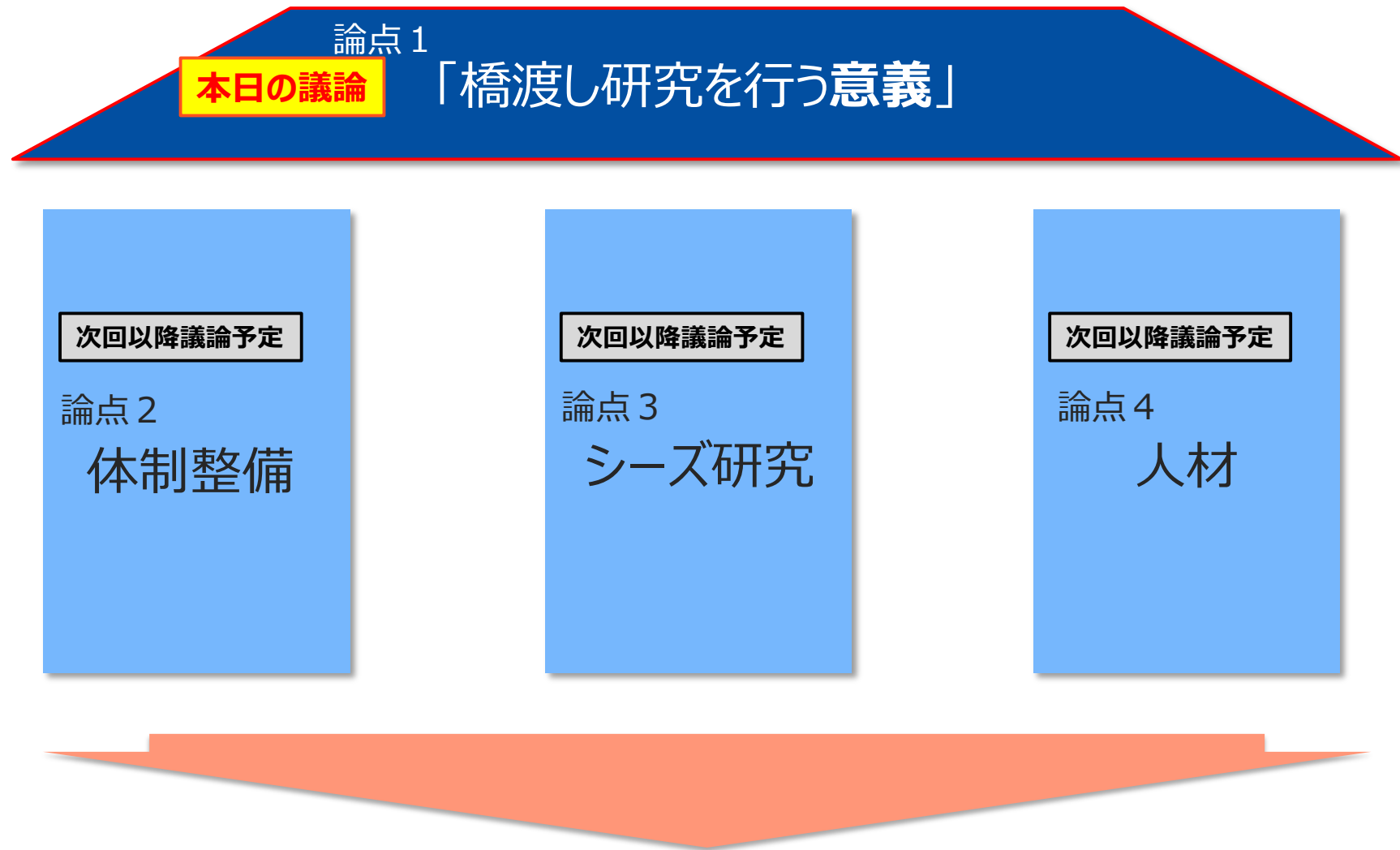


第1回 橋渡し研究戦略的推進プログラム中間評価委員会

議論のポイント（案）

平成31年3月28日

橋渡し研究戦略的推進プログラム中間評価委員会



橋渡し研究支援の在り方

1. 健康医療分野の実用化研究の意義は何か。
 - ① 学問として、なぜ推進すべきか。
 - ② 研究者自身に取り組む必要性は何か。
 - ③ 実用化研究による基礎研究やアカデミアへの貢献・メリットは何か。

2. 医療分野の実用化研究について、他分野(工学、情報科学等)と比べ、どの点に特徴があるか。

3. 橋渡し研究支援を産業界ではなく、大学である橋渡し研究支援拠点が行う意義は何か。

1. 大学としての橋渡し研究支援拠点が提供する支援のうち、どのような機能が重要か。
2. 橋渡し研究支援拠点は拠点外の大学等をどのように支援していくべきか。また、臨床研究中核病院等の病院施設と連携をどう進めるべきか。
3. 自立後(事業終了後)の橋渡し研究支援拠点の在り方についてどう考えるべきか。

1. 個々のシーズを実用化して患者に届けることをゴールとする際、国はどのようなフェーズ・内容(疾患、モダリティ等)を中心に支援すべきか。
2. 研究費支援に際し、産学連携の在り方についてどう考えるべきか。
3. 本事業における研究費の公募・選考の方法について、改善していくべき点はあるか。

1. どのような支援人材が橋渡し支援において重要か。
2. 支援人材の確保、育成方法、キャリアパスについて、国はどう支援すべきか。